

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 10 時 53 分）

---

◎議案第 4 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君） 日程第 3、議案第 4 号 松崎町準用河川流水占用料等徴収条例の制定についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君） 提案理由の説明に入る前に、私から一言おわびを申し上げることを許可願います。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○町長（齋藤文彦君） 本来であれば、平成12年当時に整備しなけりばならなかつた本件条例を15年も経過した時点で、このような形で議案として上程しなけりばならなかつたことは、行政を担うものとして誠に不徳のいたすところであり、弁解の余地もありません。

改めて深く陳謝し、職員に事務遂行上の法令根拠についての確認を怠ることがないよう指導します。誠に申し訳ありませんでした。

それでは、議案第 4 号は、松崎町準用河川流水占用料等徴収条例の制定についてであります。

詳細は担当課長をして説明します。

（産業建設課長 齊藤昌幸君 提案理由説明）

○議長（稲葉昭宏君） 以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○10番（鈴木源一郎君） 河川の占用料関係の条例は、設置は間違えでやっていたということだという説明ですが、この河川占用料の該当する条例は、これ以外にはないわけですか。河川法に該当する河川の占用料というのは河川法であるかもしれませんが、それ以下の河川はこの条例によるわけですか。そうだとすれば、それを説明いただいて、そうだとすれば、どういうのがこの準用河川なんだということがわかるように説明のある項目がないとわからないんだよね、これは。いったいどれが準用河川だということで、そこはどうなんですか。そういうものが要らないか。

○産業建設課長（斉藤昌幸君）　こちらは、今回の条例については準用河川でございます。町が管理する河川は普通河川と河川法を準用する準用河川ということの2つの種類がございます。一級、二級河川はそれぞれ国、県が管理するものでございまして、町が管理するのは、繰り返しになりますが準用河川と普通河川でございます。

占用料の規定では、今回準用河川を制定ということでお願いしているわけでございますけれども、一方の普通河川の占用料については普通河川管理条例でずっと前から規定がされてございます。準用河川というのは、もう一回説明しますが、河川法を準用し、町長が指定をする河川を準用河川ということでございます。

それで、河川法で規定する河川以外、いわゆる準用河川も含めて、一級、二級、準用河川以外のものを普通河川として、町長が指定をするわけでございます。おわかりでしょうか。

○10番（鈴木源一郎君）　説明だとなかなかわかりづらいというところがあるわけですが、そういうことだということですが、それで、この河川を占有するということは、例えば河川敷に水道パイプが通っているというような場合も該当するというふうに・・・、前にこれに関連した条例をやったことがあるんだよね。そのときは水道が普及していなかったので山水を取った樋がかかっている、そういう状態が多かったときに、それらも該当するという話をやったことをうっすら覚えているんですけどね。

だから、河川敷を使って何か橋を造るとかというのも公の話でなければ、結局占有になるわけですか。

○産業建設課長（斉藤昌幸君）　町管理の普通河川、準用河川の敷地があるわけでございます。水が通っている部分、さらには護岸という土地の部分があるわけで、そこに対して設置する管類、橋類、例えばかんがい施設とか、全ての施設、河川の敷地内を占有する部分は全て・・・、準用河川では、河川法の規定に基づいての許可申請、普通河川でしたら、松崎町普通河川管理条例の規定に基づいて許可申請をしていただく、占有の許可を町長が与えますということで、ざっくり言っちゃうと、河川に係るものは全て管類も含めて、橋も含めて全て占有の許可は必要ですよということでございます。

○10番（鈴木源一郎君）　この条例が新設されるということになるわけでしょうけれども、さっきの経過があって間違っていたということのようですね、そうすると、これから先が準用河川だよ、ここが占用料を取られる物件だよということが、かなりわかるような条例に謳いこみが必要じゃないかと思うんだけど、これだけだと、うんとこれを一生懸命にらんで勉強してもなかなかあれが出てこないというか、具体的な河川のどこが準用河川だと

いうのがわからない。どうですか、そこは。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） この条例は、どこの区域がどこで取りますよということではなくて、いわゆる準用河川の区域の中で、占用の許可を与えたものから占用料を取りますよという規定でございまして、区域が、例えば岩科の何番地から何番地、そういうことはわざわざ規定する必要は何もないわけでございます。準用河川として、松崎町長が指定した区間の中における占用物に対して占用料をいただく規定を今回制定をしますという内容でございます。

ですから、当然準用河川の区間は我われの方で河川台帳、河川の地図を持っていますので、その中で普通河川であるか、準用河川かということは、申請が上がってきた段階で、場所は準用河川なのか、普通河川なのか、それは特定して、申請者の方に指導をして、それなりの占用の申請書を出させるという手続きになります。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○1番（藤井 要君） 先ほど冒頭の中で、町長が徴収しすぎたと、条例がないのにも関わらず徴収したということで、謝りもありましたけれども、これはあれですか。よく休耕田とかがいま増えているわけですがけれども、今までは使っていたけれども、今は休耕田というようなことになっていて使っていない。そういう管理の把握というのは、どのようにやっているのか、お伺いしたいと思いますけれども。

以前に田んぼを作っていて、申請していたということで、今はもう使っていないというようなことがあるかと思うんですよ。そういう管理。また作り出したというときに、申請しなければということになるわけですがけれども、その管理はどのような方法でやるのか。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 管理の基準という解釈でございましょうか。当然準用河川、普通河川、それから、一級、二級河川、かんがい用水、かんがい施設があって、水を引っ張ってかんがい用水として使うわけでございます。

準用河川のところ、我われの準用河川のところにかんがい施設が例えばあるとして、その場合の設置の管理等については、当然占用者がやらなければいけない話ですがけれども、設置する基準、許可の基準については河川法を準用しますので、河川法の構造物規定がきちんと国で定まっておりますので、それに準じてやるわけございまして、さらに普通河川の部分に関しても国の通達等がありまして、国の河川構造物等の規定にならってくださいよということで、河川法の規定に準じて設置する施設が本当にいいものかどうかというのは、当然河川法をよりどころにするわけでございます。

(藤井議員「未許可でとか・・・」と呼ぶ)

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 水を引き込む管理とかなんかは当然その占有者の方の管理するものでございます。当然・・・、だけど河川の中で引き込む河川が、例えば壊れているというのは、我われ・・・、公共物ですので、河川の管理は当然町が・・・、護岸が崩れているとか、用水路の穴があいているとかという整備は当然我われの方でやります。それは当然のことでございます。

○1番（藤井 要君） 私の今の質問が悪かったこともあるでしょうけれども、未許可で使っている、そういう場合ですよ。そういう管理等はやっぱり申請すればわかるわけですよ。申請しない場合は、これはずっと永久的にただで使えるということもあろうかと思いたすけれども、そういう管理状況は、どのように把握するのでしょうかということなんですよ。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 町長、管理者の許可を得ずに不法占用したものでございます。それは当然発見をした次第に直ちに河川法の規定の罰則規定がございますので、それに基づいて過料等が発生するわけです。ただし、占用料に関しましては、河川法の規定によりますと、河川の占用の許可を受けたものからはじめて占用料をいただくことになっていますので、不法占用、無断占用して、過去10年前から無断占用している10年間分の占用料を当然いただくことはできないわけです。だけど、いま申し上げましたとおり、不法占用したものについては、河川法の規定によって厳しい罰則規定がございます。ペナルティがあるということでございます。

繰り返しますけれども、占用料をいただくのは、河川法第23条、24条、25条の許可を与えた者から占用料をいただくという規定になっております。

○1番（藤井 要君） そういうことになりますと、通常の使っている、未使用の・・・、そういう管理はしないということで、見つけた時点でやるということですよ。そして、例えば、10年使っていても、5年とか遡ってという関係がありますから、遡って5年前にしか請求はできないよと・・・、ここには第8条にも5倍相当の5万円とかいろいろありますけれども、これは半永久的に遡るということではなくて、5年間遡って徴収とか、そういうことはどうでしょうか。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 不法占用したもの、例えばものという解釈ですね。10年前から不法占有をしている、町長の許可を得ずに勝手に設置した施設に対して、占用料の関係ということで、それは先ほど申し上げましたとおり、例え20年前だろうが、10年前だろうが、その不法占有を見つけた時点で遡った期間の占用料は取れません。占有の許可を与えたもの

からはじめて占用料を取ることができる規定になっていますので、当然のことながら、不法占用したものに対しては占用料を取ることにはできないわけです。ただし、先ほども申し上げたとおり、河川法の罰則規定がある、それはもうがっつりと厳しくペナルティが課せられるということを理解していただきたいと思います。

○6番（土屋清武君） 町で管理する川について、準用河川と普通河川ということですが、どうも私も役場にて、どれが準用河川で、どれが普通河川かという、どこまでがそうかということがはっきりわかっていないですけれど、議員の方々はみんなわかっているのかな。できれば、さっき図面があると言っていたから、どうですか、議長、議員にその図面を、資料提供をお願いしたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君） 請求をしておきます。

どうですか、その件について、産業建設課長。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 確かに図面があるわけですが、A0の大きい図面になっちゃいますけれども、閲覧ということでは・・・。

○議長（稲葉昭宏君） いいんじゃないですか、閲覧ということで。

○6番（土屋清武君） できれば、議員の控室あたりへちょっと今日にでも持ってきてくれて、見せていただければ、議員さんも見られますから、それで理解できると思いますから、私はそれでいいと思いますけれど。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） 河川台帳がございまして、私も前に自分で作った台帳、図面があります。色分けがされております。確か、緑とブルーだったか、準用河川と普通河川の色分けがされている図面がございます。担当の方に言って議員の控室の方にあげさせるようにしますけれどよろしいでしょうか。

（土屋議員「はい」と呼ぶ）

○議長（稲葉昭宏君） それでお願いします。

○5番（高柳孝博君） 今の話しは、細かいのは台帳で見ればわかるわけですので、基本的に普通河川と準用河川はどのような違いで分けているんですかという話。だから準用河川は、例えば小さい河川ですよ、普通河川は一般的によく小川と見えるような、その支線になるのはだいたい準用河川とか、そういうことを言うていただければいいと思います。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） だいたい準用河川として指定するのは、当然町長が指定するわけがございしますが、じゃあ、そこはどういう形かという、いわゆる一級、二級河川に入ってくる支流の本流、普通河川は、さらにその枝というようなイメージをしていた

きたいと思います。当然独立水系等もございます。例えば、雲見の太田川とか、石部の山道川、その山道川に入ってくる小河川があります。それは普通河川だと、概略で思っていたきたいと思います。さらに普通河川というのは、我われの田んぼの周りの水路があるわけです。用悪水路、それも普通河川条例の適用をして、占用の許可、例えば、橋を掛ける場合でも当然占用の許可をしてくださいという形になるわけでございます。

ですから、一般的に江奈地区でいくと、南川が準用河川になるわけでございます。だいたいちょっと幅が広いなというところがあれば、もうほとんど準用河川として指定しているわけございまして、町内の方には20河川ありますので一緒に準用河川の一覧表を・・・、20河川ありますので、その資料も必要であれば一緒に閲覧していただければとよろしいかと思えますので、用意させます。

○2番（福本栄一郎君） これは平成12年からという説明が前回のときにありましたけれども、それがどうして、今回こういうことに至った経緯を教えてください。発見したというんですか。

それと、普通河川は普通河川管理条例があるけれども、準用河川管理条例がなく、ただいわゆる法律で制定する、なぜ準用河川管理条例を作らないんですかということが2点目。

それから、先ほどの関係で台帳がありますと言うけれども、準用河川台帳がありますけれども、準用河川管理条例がないにも関わらず台帳が存在するということ自体・・・、それに基づいて今まで誤って課税していたわけですね、使用料を取っていた。その辺の関係をちょっと教えてくださいませんか。

○産業建設課長（斉藤昌幸君） いま3点でございますが、まず1点目、なぜ発見したかということでした。1点目は。

全協のときにも私の方で説明しましたが、平成26年度の河川占用料を調定する際、占用料をいただく根拠について確認をしましたら、準用河川はなく普通河川はあったということで、今回急きょ条例の方を制定するように議案上程したという理由でございます。根拠がなかったことを発見したということでございます。じゃあ、なぜずっと忘れ去られていたかといいますと、全協でも説明したとおり失念をした、自治事務となったことを失念したということしか推察ができないということでございます。

それから、準用河川管理条例を作ったらどうかということですが、準用河川の管理に関しては、河川法を準用するのが準用河川ですので、河川法が管理の法令、例規にあたりますので、わざわざ準用河川管理条例を規定する必要もなく、また他の市町でも一切準用河

川管理条例というものは作ってごさいません。河川法をよりどころとするということでごさいます。

条例が制定されていないうんぬん、これは占用料を徴収する規定を今回上げたわけでごさいまして、河川法を制定するのは河川法のよりどころでごさいます。河川法はもう古く昔からある法律、国の法律に基づいて町長が準用河川として指定をする、していいよという規定がきちんとごさいますので、これは当然準用河川を指定するのには何ら河川法に基づいてやることでやぶさかではありません。ただ、準用河川の占用物に係る占用料を徴収する根拠がないから、今回はじめて申し訳ごさいませんが、作らせてくださいということで持ち上げたものでごさいます。

○2番（福本栄一郎君）　じゃあ、管理条例はいいですけども、それはどこがというのを周知するためのものはあるんですか。そこの前の、一応通称二級河川那賀川、岩科の方は通称二級河川岩科とっていますけれども、準用河川というのはどことどこ、先ほどの議員さんも言っていますけれど、それを告示なり、なんかをPRしないとわからないでしょう。

ですから、ここでいっている過料の処分、第8条、過料の処分といって5万円相当の過料・・・、どこが準用河川だか一切わからないんじゃないですか。非常に町民にとっても不親切なことだと思いますよ。そのへんと、それから、2点目、今までの過料を、ないにも関わらず平成12年から取っているということですけども、むこう5年分しか返さないという、その辺の・・・、誤ったから、返します。ただし、5年・・・、5年というのはどこから定めたんですか。その辺をお伺いします。

○産業建設課長（斉藤昌幸君）　準用河川が、うちの方は20河川管理をして持っているわけでごさいます。当然準用河川を指定するときには、町の公示によって定めるという規定でごさいまして、その手続きに基づいて、過去指定をしたときに町長が公示をして知らせたという形でごさいます。必要であれば、町民の方が準用河川がどこだということであれば、先ほども申し上げましたとおり、河川台帳の方を閲覧することはいつでも自由でごさいますので、来ていただければよろしいんじゃないかとは思っております。

それと5年の関係については、前の全協でも申し上げましたとおり、自治法236条、金銭債権の消滅時効の5年規定に基づいてやったわけでごさいます。それで5年以上のものについては、申し訳ごさいませんということでごさいますけれども、こちら自治法236条の規定に基づいて5年以前のものについては債権の消滅があるということで、申し訳ごさいませんが、条例の規定どおり返還はしない、5年以内のものについては返還しますというふうに区

分わけをさせていただいたものでございます。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 賛成討論なしと認めます。

これをもって討論を終了します。

これより議案第4号 松崎町準用河川流水占用料等徴収条例の制定についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手全員）

○議長（稲葉昭宏君） 挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

---